ニッキン
（第3種郵便物認可）　1996年（平成8年）7月19日（金曜日）

ちょっと一言

人材育成に温かい理解を

救援の心、国境越えて

AMDA代表　菅波茂氏（四九）

ルワンダ難民救済、阪神大震災の医療支援。助けを必要とする世界のどこへでも飛んでいく。AMDA（アジア医師連絡協議会）は、アジアの医師や看護婦らがネットワークを組み、医療支援を行う国連NGO団体。

内科医の菅波茂氏は七九年、西日本医学生アジア連絡協議会からカンボジアの難民医療支援に派遣された。「受け皿がなく何もできなかった」くやしい経験から八四年、アジアの医師五十人らとともに「AMDA」を結成した。以来、岡山の本部を拠点に、世界十八ヵ国の支部と緊急医療活動や難民救済にあたる。会員は主婦や学生、企業などを含め一千五百人（社）に広がっている。

世界が認める経済大国日本。しかし、日本人は物の考え方が分からず顔が見えない、と言われる。AMDAの理念は「相互扶助思想」で、「人道援助大国・日本」をめざしている。活動資金は、国連、外務・郵政省、民間機関などから受ける年間六億円。しかし、自然災害など予期できない緊急救援への対応に「資金は十分とは言えない」。

地元金融機関では、AMDAの「地域おこし」と「国際貢献」の趣旨に賛同し、力強いエールを送る。岡山に本社を置く全日信販は、売上金の一部を援助する社会貢献カードを四月から発売。また、中国銀行は八月から利息の二〇%を寄付するボランティア定期預金を取り扱う。中国銀は、AMDAと菅波さん個人のメインバンクでもある。

金融機関を取り巻く環境は厳しい。「こういう時だからこそ、フィランソロピーに積極的であってほしい」と期待する。AMDAが特に力を入れるのは人材育成。「高校生に、情報社会では決してできない体験をしてほしい」とAMDAの海外ツアーに参加させている。費用の十万円を十年間、無利息で貸し出す。「この〝人材育成基金〟に金融機関にも協力してもらえたら…」と理解を求める。

「日本には医者や看護婦らの専門家は多いが、専門家を活用するコーディネーターがいない」。救援活動の足を休める間もなく、今度はボランティアの「プロ」を育てるAMDA国際大学の設立に動きだした。